## 令和4年度第2回北海道立带広美術館協議会議事録

- 1 日 時 令和5年(2023年)3月1日(水)13時30分から16時00分
- 2 会 場 北海道立帯広美術館 講堂
- 3 出席委員 吉田真弓(会長)、加賀学(副会長)、能戸貴英、石崎庸之、土井裕子、松岡準志、 持田誠、大河原茂美、中村博明 計9名(欠席 後藤眞美子、原田純子、水口誠)
- 4 事務局 野﨑弘幸(館長)、石黒千栄子(副館長)、吉田昌代(主査)、耳塚里沙(学芸員)
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
  - (1) 令和4年度事業の実施状況について
  - (2) 令和4年度美術館評価(暫定版) について
  - (3) 美術館評価の改正について
  - (4) 令和5年度事業の運営計画について
  - (5) 教育普及事業(帯広美術館オンラインアート教室の成果と課題)
  - (6)協議・意見交換

## 7 協議・意見交換議事録

最初に、前回話題になった事項に対する事務局からの説明及び欠席委員からの意見に対し、事務局から回答

委員:美術館評価の改正については、博物館法の改正内容を反映していると感じる。 新規の評価価指標である「学芸員の研修等の状況」の研修等とはどのようなことを指すのか。調査研究の推進と学芸員の研修にはどのような関係があるのか。

「学芸員による調査・研究の報告や発表の状況」は定量評価できるのではないか。 研修の成果をコレクション・ギャラリーにどのように反映させるのか。現在のコクショ・ クション・ギャラリーは新たな発見や解釈などが、どのような調査研究によりどのような 最新情報が反映されているのかという新規性が感じられなく、テーマ別に展示作品を入れ 替えている感じが否めない。調査研究の内容が分かるような展示の仕方をすると評価が高 まるのではないか。

昨年の「竹久夢二・小林かいち展」の小林かいちの資料の展示方法は学芸員の調査結果が 反映された内容だったと感じた。

教職研修プログラムの参加者が少ない。どのような理由が考えられるか。

事務局 : 学芸員の研修については、国や道が主催している研修を始め、学芸員の自主研修など も含めることを想定している。調査研究の方法やその成果をどのように展覧会に反映させ られるか研修することも考えられる。

「学芸員による調査・研究の報告や発表の状況」の評価の定量化については、制度改正 に向け意見を求め検討を進めている段階であるため、意見として道教委へ報告する。

展覧会を見るだけでは調査研究の成果が伝わりにくいと思うが、他の情報発信により成果を反映した展覧会を開催していることを周知していきたい。

教員研修プログラムは、学校の長期休業中に行っている。昨年度までは実地研修のみで 学校における美術館の活用方法等の講義を行っていたが、遠隔地の教員が参加しやすくな るよう今年度はオンラインで参加できるようにした。

委員:令和4年度の美術館評価で「ソーシャルメディアの有効活用の検討が必要である」と あるが、ソーシャルメディアへの投稿は非常に難しいと感じている。投稿シェア機能やリ ンク先を埋め込める機能、パソコンとスマートフォンとの投稿方法の違いなどがある。

美術館として投稿するのはもちろんのこと、他の投稿者から美術館のことを紹介する投稿をしてもらう方法を検討する必要がある。インターネットの活用方法は情報を集めて常に模索する必要がある。

- 事務局 : 当館ではフェイスブックにより情報を発信している。来館者からの投稿は来館者数の増につながりメリットを感じている。新聞社等と実行委員会を組む展覧会では、来館者が投稿できる展覧会専用のサイトを立ち上げることもある。展覧会にもよるが、来館者が直接投稿できる手段をできる限り検討する。
- 委員:オンラインアート教室は教員の研修に活用できるとある。4月から教員の研修制度が変わり研修履歴を記録として残さなければならない。教職員が参加できる研修は多いほど 選択の幅が広がる。美術館では教職員研修での活用をどのようにイメージしているのか。
- 事務局: 市町村教育委員会単位で実施する研修を想定している。内容については要望を聞きながら事前に協議して決定する。録画したものを配信するのではなく、リアルタイムでの美術鑑賞や講義を想定している。内容例を示しているが、できる限り要望を取り入れた内容で実施したい。
- 委員:来年度、「坂本直行展」が予定されている。NHK 番組「日曜美術館」で坂本直行を放送したが、取材を通して坂本直行は美術界ではあまり認められていないと感じた。市民ギャラリーにおいてNHK主催で展覧会を開催するが、帯広美術館で展覧会を開催しようしたきっかけや苦労したことを教えてほしい。

現在、注目されている作家であり、今後講演会等も予定しているようだができる限り協力させていただきたい。

事務局:地元ゆかりの作家の展覧会を検討している中でいくつか候補があったが、今まで大々的に取り上げられていないが知名度が高い坂本直行を選択した。

坂本直行は絵画だけではなく執筆活動も行っていた。直行の多様な面を紹介する展示プランを想定している。現在は、十勝地方以外の方で作品を持っている方やゆかりのある方の調査を行っているところであるが、広い地域に作品が点在しており、苦労している。

また、作品を借り受けられる期間も限れており、会期が短くなっている。展覧会期間中は様々な関連事業を検討しているので、協力をお願いしたい。

委員:近年、札幌で開催した展覧会をすぐに帯広で開催することが多く、帯広美術館の観覧者数に影響が出てきていると感じる。そのような日程で展覧会を開催することは避けられないか。

事務局 : 実行委員会展では企画会社が扱っている展覧会を取りあげることが多い。企画会社は元 を取るために北海道では複数箇所での開催を要望していると聞いている。道内で複数回 開催する場合は、帯広が最初の展覧会となるよう希望していきたい。

委員:北海道立美術館等応援サポーターについて、寄附金に下限額はあるのか。

事務局:制度については今月末に決定すると聞いている。下限額については確認し、後日お知らせする。

委員:「銀の匙展」は人気があったが、観光客の来館はどれくらいあったのか。ツアーの一環 として美術館を入れることは可能か。いい展覧会を開催しているので観光客にも見ていた だきたい。

オンラインアート教室について市町村教育委員会へ通知をしたと説明があったが、通知は1回限りなのか。随時、宣伝やPRを行わなければ、地域の担当者まで情報が届かないのではないか。釧路市内の社会教育団体へ話を持って行きたいと思う。

事務局: 観光客向けとして、駅やホテルにポスター掲示・チラシ配架をお願いしている。ついでに立ち寄る方、わざわざ道外から展覧会だけを見に来てくれる方もいる。

地元のバス会社の1日観光ルートや旅行会社のパッケージ旅行に美術館を組み入れても らっている。

オンラインアート教室の周知については、通知文として市町村教育委員会、学校へ発出している。その他、管内の社会教育関係者の会議で学芸員が説明をしている。ポンチ絵は、様々な機会で配付する予定である。実施要綱上は、十勝、釧路、根室及びオホーツク管内の学校等を対象としているが、それ以外の学校等から要望があれば実施可能である。

委員: 札幌で開催されていたバンクシー展でスマートグラスが活用されていた。スマートグラスは年齢に関係なく使え、簡単でおもしろい。子どもたちにもっと楽しく鑑賞してもらうために取り入れたら良いと思った。

展覧会の説明パネル、キャプションは小学校低学年には難しい。子ども達に興味を持っ

てもらうための工夫と観点から考えていただけないか。

美術館等応援サポーターでは、寄附金を作品購入だけに使うだけでなく、最先端の技術 を導入するためにも使えるよう考慮していただきたい。

- 事務局: 昨年の「銀の匙展」でVR (バーチャルリアリティ)を使って、子ども達に酪農の作業風景等を見せるイベントを行ったので紹介する。
- 委員:今年度は本校美術部がオンラインアート教室の試行をした。途中で配信が途切れ、画像 も本物とかけ離れ、色も違って見えた。その後どのような改善をしたか。

周知の方法にも工夫が必要である。通知文の発出だけではなく、校長会、教頭会の機会も活用できる。オンラインアート教室は評判がいい。子ども達が美術館に足を運ぶきっかけになるといい。

教職員研修の周知には、帯広美術研究会や美術サークルに話を持って行くとPRに協力 してもらえるのではないか。

美術館の雨漏りは問題である。美術館からも関係部署へ対策の要望を強く続けてほしい。

- 事務局: Wi-Fi 環境が悪いため、来年度はモバイル Wi-Fi を導入する予定である。カメラ等必要な機材も今後そろえていく。部活動の外部委託化が始まるが、文化部活動においても美術館やオンラインアート教室を利用していただきたい。周知については、協力をお願いする。雨漏りについては、令和5年度に実施設計、6年度に工事を行う予定である。
- 委員:新しい美術館評価指標に「学芸員の研修等の状況」が新設されている。学芸員の研修が そのまま調査研究の推進に結びつくか疑問に感じる。日頃の調査内容や成果を発表するこ とは評価の対象となるが、研修を受けるという受動的に学ぶことは調査研究とは別な形の 評価となるのではないか。

研修の充実については、博物館法の改正に入っており、館長や学芸員の主体的に学ぶ 機会を充実させることである。

新規項目ということで、研修等の状況の内容をこれから具体的にしていくかと思うが、 博物館と美術館の学芸員は業務内容も調査研究の方法も違うので、現場に異論がなければ、 このままでも問題ない。

学芸員による調査研究の報告や成果の発表は、論文の発表以外にもギャラリートークや新聞記事の投稿なども発表の場と見なされるので定量評価ができると思った。博物館や美術館はイベントを開催していると思われがちであるが、土台となる調査研究の部分を正当に評価できる形になればいいと思う。

事務局 : 学芸員の調査研究は美術館活動の根幹である。成果の発表の場は文献寄稿だけではなく、 展覧会の展示内容やオンラインアート教室のように子ども達に還元できることもある。そ ういう意味で定量ではなく定性評価の方法もありだと考える。今後は、どこに調査研究の 成果が表れているのか来館者が見て分かる形にしていきたい。 委員:観光をコンセプトにした Instagram を作っている。帯広美術館を訪れ、撮影し、投稿することは問題ないか。

事務局:博物館法の改正により観光との取組も重視されている。個人が投稿、発信することについては問題ない。

委員:令和4年度美術館評価で「主任学芸員が道立美術館・芸術館紀要に論文を投稿した」と 記載がある。この論文の抜き刷りを協議会委員に配ることは可能か。

事務局 : 紀要は3月発行予定である。後日委員に抜き刷りを送付する。

	委 員	事務局回答
【令和4年度事業の実施状況について】	・オンラインアート教室の参加者、実施 回数が予定を大きく上回ったという ことは、地域が求めていたからだと感 じた。 ・学校だけではなく社会教育事業にも取 り入れられていることで、ますます需 要が伸びていくことが予想される。今 後の取組を期待する。	・帯広美術館独自のオンラインアート 教室は社会教育関係団体も対象としており、問い合わせも多かった。 ・今年度の実施により、成果と課題が把握できたので、来年度以降も更に充実した内容で実施する。 ・令和5年度は4月22日から6月11日までオンラインアート教室実施に特化した展覧会を開催する。
【美術館評価(暫定版) について】	・「銀の匙」展は若い世代の来場者が多かったことが伺え、展覧会の内容によるところが大きいと思った。 ・帯広美術館の展覧会は、リモート・ミュージアムで紹介されており、意気込みが伝わったが、観覧者数が少なくて残念に思う。 ・今後も道東で活躍されている画家など、様々な企画展を継続していただきたい。	
【美術館に期待すること】	・委員になってから美術館を訪れる機会が増えた。展示作品も絵画だけではなく漫画や絵本、写真など新しいものに出会え、美術館のイメージが大きく変わった。 ・今後の企画展を楽しみにしているが、遠距離で気軽に行くことができないので、リモート・ミュージアムの普及を望む。	・観覧者数は展覧会の内容や開催時期 に左右されるが、観覧者の増に向け、 展示内容や関連事業企画を検討して いく。
【その他(自由記載)】	・他の道立美術館に比べ、北海道新聞へ の広告が少ないと感じる。根室は道新 購読者が多いので、紙面を見て美術館 へ行く動機付けにつながると思う。	<ul> <li>・北海道新聞、十勝毎日新聞を始め、地方紙(釧路新聞等)や地方ラジオ局を媒体に広報活動を行っている。</li> <li>・新聞社と共催する実行委員会展では大きく紙面を割いて広告していただいている。</li> <li>・道単独の展覧会においても取材依頼をし、記事を掲載していただいている。</li> </ul>

## 令和4年度第2回北海道立帯広美術館協議会その他の事務局回答

項目	質問等	回 答
【北海道立美術館等応援サ	寄付金に下限額を設けるのか。	寄付金に上限・下限額は設け
ポーター制度について】		ません。
【美術館評価(学芸員によ	主任学芸員が道立美術館・芸術館紀要	3月中発行する予定です。紀
る調査報告) について】	第32号に十勝で戦前に活躍した女性	要が到着次第、美術館から協
	画家に関する論文を寄稿したという	議会委員へ送付します。
	ことだが、論文の抜き刷りをいただき	
	たい。	